



## 感染性胃腸炎について

感染性胃腸炎とは、ウイルスや細菌によっておこる胃腸炎のことです。毎年、11月ごろから感染者が増えはじめ、特に寒い時期に流行しやすい病気です。

ウイルス性の胃腸炎は便や嘔吐物から感染するリスクが非常に高いです。学校では、集団感染のリスクが高いため、嘔吐物の処理について感染が広がらないよう、細心の注意を払っております。学校で行っている嘔吐処理の方法についてはご家庭でも実践できますので、ぜひご家庭でも実践してみてください。また、家庭ではトイレや洗面所など共有して使うものから特に感染が広がりやすいので、感染対策や処理の仕方に留意していただき、家庭内感染を予防しましょう。

### 処理の仕方

#### ■準備するもの

- |              |                          |
|--------------|--------------------------|
| ・使い捨てマスク     | ・新聞紙やペーパータオル、ぞうきんなど      |
| ・使い捨て手袋      | ・次塩素系漂白剤（ハイター、ピューラックスなど） |
| ・ビニール袋（2枚以上） |                          |

- ① 嘔吐物は新聞紙やペーパータオルなどでおおう（ウイルスが空気中に広がるのを防ぐため）。窓をあけて換気をする。
- ② マスク・手袋を装着。
- ③ ペーパータオル等で覆った嘔吐物に次亜塩素酸系漂白剤を100倍の濃度にしたものをかける。5～10分程度放置。  
100倍の濃度に薄めるためには500mlの水に薬品5cc（ペットボトルキャップ1杯程度）を加える。
- ④ 5分～10分くらい経った後、汚れた場所が広がらないように外側から内側に向かってふき取る。
- ⑤ 処理で発生したゴミをふくろにまとめる。二重袋にする。
- ⑥ 手洗いうがい・着替え

### アルコール消毒が効かない？

コロナ禍で各家庭にも普及したアルコール消毒。手指用のアルコールは持ち運びも可能で、いつでも手軽に消毒できることからコロナ禍後も重宝されていると思います。しかし、アルコール消毒はコロナウイルスやインフルエンザウイルスには効果があるものの、感染性胃腸炎の原因となるノロウイルスやロタウイルスには効果がありません。

したがって、感染性胃腸炎を予防するためには手洗いうがいが欠かせません。まずは手洗いうがいを重点的に行い、アルコール消毒はあくまで補助的に行うようにしましょう。



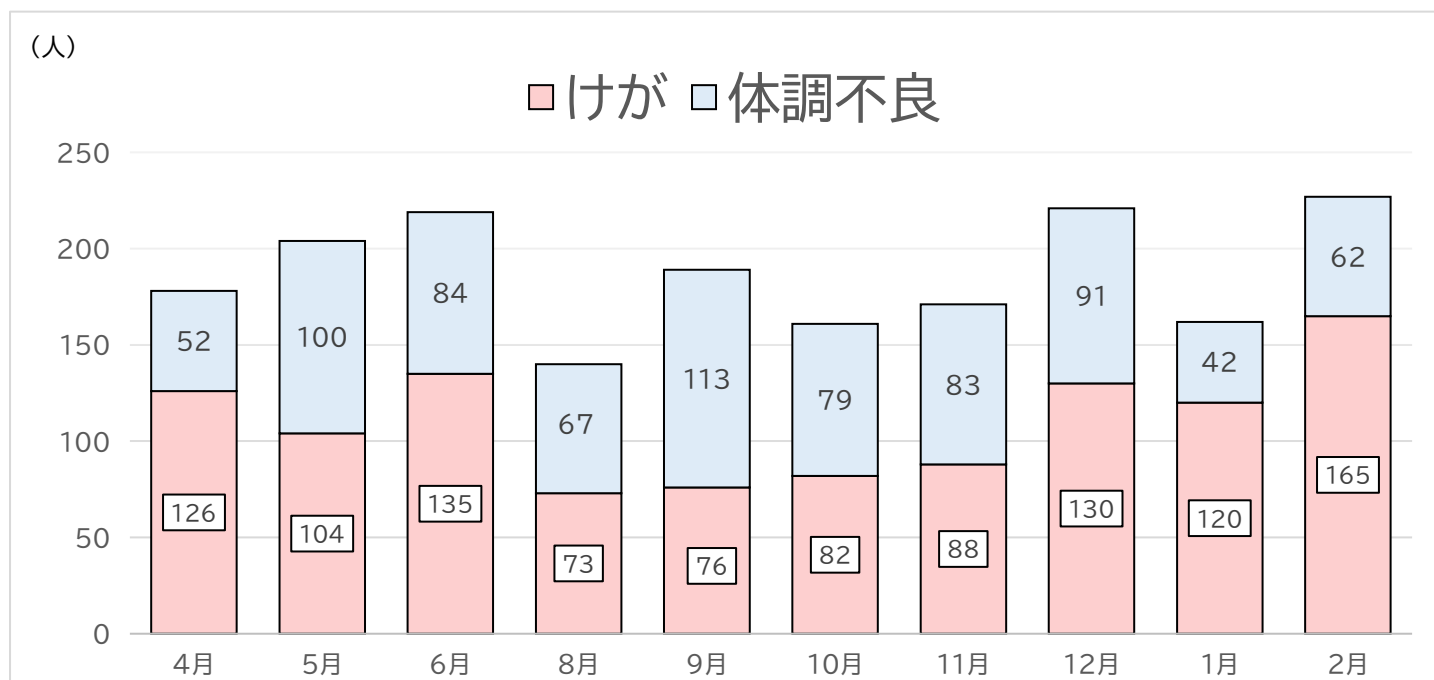
## 保健室の様子

昨年4月から2月までの間に計1872名の児童が来室しました。健康診断や出張等で保健室が開室していない日もありますが、1日当たり15名程度が来室している計算になります。

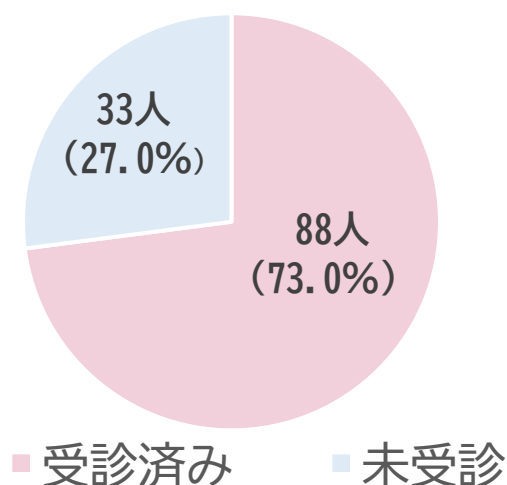
12月末にはインフルエンザが本校でも流行しましたが、今年度は一度も学級・学年閉鎖をすることがなく今日まで来られました。のこり3週間も感染症が流行しないように、手洗いうがいの呼びかけ、換気の徹底に努めたいと思います。

昨年度に引き続き、今年度も記録的な猛暑になり、体育や休み時間の外遊びが中止になる日が続きました。外に出る機会が減ったためか、7・9・10月のけがは少なかったものの、そのほかの月では過去に比べてけがが増加している傾向にあります。暑さも要因の一つではありますが、そのほかにも現代の子供たちは体を動かす機会が減っています。そのため、けがをしやすい子どもが増えており、保健室でも子供たちのそのような変化を感じます。

最後になりますが、保護者様には体調不良やけがなどでお迎えをお願いすることもあり、1年間多大なご協力をいただきました。ありがとうございます。来年度もご協力よろしくお願いいたします。



### むし歯受診率(%)



### むし歯の治療率

昨年度の最終的な治療率は58.4%でしたが、今年度は73%と大幅な治療率の向上がみられました。目指すは全員治療ですので、ぜひ3月中に受診をお願いします。

来年度も5月ごろに歯科健診を予定しています。今年度は治療にしてくれたご家庭が大変多かったので、来年のむし歯保有率の低下を期待しています。